

今月のテーマ：秋の訪れ、恵みの秋

暑過ぎる夏がようやく終わり、松之山にも秋がやってきました。山の木々が色付き始めるいちばん好きな季節です。秋と言えば…？食欲、読書、スポーツ、芸術、冬支度の前に短い秋を存分に満喫したいですね。

布川地区

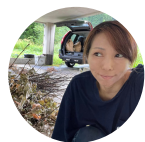
九月二十三日、松之山まちづくり事業で申請をした山のアロマで地域おこし実行委員会のイベントを開催しました。松之山布川産クロモジで作ったアロマオイルのご紹介と販売、ラベンダー作付けフェスタ、アロマ講座とクラフト体験、水上で行うサップヨガ体験と、一日で延べ五十名の方にご来場いただきました。今回このイベントで大蔵寺高原に百五十株のラベンダーを植えたのですが、その準備として八月三十一日に苗植えを先行しました。一緒に手伝ってくれたのは布川地区のおかあさんたちです。布川にも昨年、みんなでラベンダーを植えました。今年は地域を離れた場所での活動ということもあり、全員に声はかけられていないのですが来年、花が咲い



△8月31日ラベンダー-苗植え



△松之山産クロモジアロマオイル



山のアロマで地域おこし
担当 志水 八千代

たら地域のみなさんと一緒に見に来れたらいいなと思っています。

協力隊としてここに来てから、ずっと目標に掲げていたことのひとつである松之山布川産クロモジのアロマオイルの商品化。このイベントに合わせてご用意していた二十個すべてが当日に完売しました。クロモジは爽やかで芳しく、リナロールなど鎮静・抗不安作用が認められる芳香成分が含まれており、とてもリラククスできる香りが特徴です。プレゼントにも松之山のお土産としても、きっと喜んでいただけます。イベントご参加の皆さま、応援してくれました。皆さま、本当にありがとうございました。

松之山かわら版

Matsunoyama Kawaraban

Vol. 09

2023年10月

編集

ローラン・アントワヌ
志水八千代
上村祥太郎
平本大輔
平本菜緒

「松之山かわら版」は、
松之山の地域に所属して
いる地域おこし協力隊の
活動広報誌です。

浦田地区



浦田中「ジュンジュン」
担当 平本 大輔

暑い真夏が終わりとても涼しい季節がやってきました。この時期になるといろんなところで「ピッピッ」とコンバインの音が聞こえてきます。今年の夏は雨が全く降らず田んぼによって水が足りないところがあると聞きました。ですが毎年お手伝いをしている所で田んぼが深いところがあり、手刈りできているのですが今年はコンバインが入ることができずに稲刈り作業が終わりませんでした。毎年苦労して手刈りをしてきたところがあつという間に終わりとても感動しました！やっぱり最新の技術を使つての稲刈りはとても便利で何町歩もやる農家さんには必須な機械だと改めて実感しました。もう浦田に来て2年半がたち浦田の方々には大変お世話になってます。野菜を頂いたり雪の時は助けて頂いたり恩がありすぎて返しができません（笑）なのでこの浦田に定住することになったってゆつくりと浦田の皆さんにできることをコツコツと恩返しができたかなと思っています。



△コンバインで田んぼに行く様子



△ふるさとマルシェ2023



浦田ホームページ
リニューアル

九月十七日に東京国際フォーラムで行われたふるさとマルシェ2023に浦田地区の特産物や野菜などを売りに行きました！協力してくださいました浦田の皆さんありがとうございます！少しでも浦田地区に興味を持ってもらうために特産物売るだけではなく浦田のPRチラシを配りながら商品も売っていました。あつ！そういえば浦田地区の新しいホームページもリニューアルしたので是非見てください！浦田地区の品は好評で買って頂いたお客さんは満足そうにしていました。お客さんの中には「松之山に親戚いるよ」と言う方もいてすごいつながりがこの地域にはあるんだなと改めて実感し、このつながりを大切にしたいと思いました。

川手地区

稲刈りで一ヶ月があつという間に過ぎました。稲刈りが終わると寂しくなるかなあと思いつつ、いよいよゆつくりできると思っていたのですが、また違ったようです。むしろ、乾燥、脱穀、もみすり、米選、精米、包装、そして販売まで、すべては稲刈りから始まるということを知りました。実は、稲刈りは長いプロセスの始まりにすぎません。かつては稲刈りが機械もなく行われていたことを想像するとさらに感銘を受け、とてもたくさんの子供たちが収穫を手伝ってくれたからこそ稲刈りが出来ていたのだと理解しました。その努力を私自身が肌で感じるために、お借りしている3つの田んぼで「はさかけ」をしました。下川手の方々のご厚意でバインダーをお借りし、幸いなことに私の田んぼは他の地域と違って水不足に悩まされることもなかったので相変わらずとても深く、

初めての稲刈り

担当 ローラン
アントワヌ



稲刈りで一ヶ月があつという間に過ぎました。

稲刈りが終わると寂しくなるかなあと思いつ

つ、いよいよゆつくりできると思っていたので

ですが、また違ったようです。むしろ、乾燥、脱

穀、もみすり、米選、精米、包装、そして販売

まで、すべては稲刈りから始まるということを知

りました。実は、稲刈りは長いプロセスの始

まりにすぎません。かつては稲刈りが機械もな

く行われていたことを想像するとさらに感銘を

受け、とてもたくさんの子供たちが収穫を手伝

ってくれたからこそ稲刈りが出来ていたのだと

理解しました。その努力を私自身が肌で感じる

ために、お借りしている3つの田んぼで「はさ

かけ」をしました。下川手の方々のご厚意でバ

インダーをお借りし、幸いなことに私の田んぼ

は他の地域と違って水不足に悩まされることも

なかったので相変わらずとても深く、

黒倉集落



敬老の日のお弁当配りで 思うこと

担当 上村 祥太郎

九月は稲刈りで忙しい季節。集落が慌ただしくなる中、黒倉集落では一つの活動がありました。それは「敬老の日」でのお弁当配布行事。高齢者に感謝の気持ちを込め、地元のお母さんグループ「山鳩グループ」がお弁当作り・配布を行いました。私もこの活動に参加し、お弁当作りや配達などのサポートに協力しました。

個人的には敬老の日についてはこれまであまり意識したことがありませんでした。しかし中山間地域の農業を中心とした集落に入ると、上世代の方々が集落で共に生活してきた姿勢や知恵を学ぶ機会が多々あり、いかに経験者の体験や知恵が貴重なのかを知ります。集落やその自然環境に関する知識や知恵は実に価値があり、上世代の方々が集落の活動をリードし、中心的な役割を果たしてきたことが分かります。私自身も集落での生活から多くのことを学ばせていただきました。

集落に身を置くことでこれまで普段あまり接す

ることがなかった経験豊富な高齢世代からの暮ら

しの知恵の教えを受けることは、私にとつては大

きな幸運です。集落の先輩方の生き方から得た学

びから、今の時代にどのようにいかせるのかをし

っかり考えていきたいと思える良い機会となった

一日でした。



△お弁当準備風景



△お弁当が完成

バインダーがはまり、時には手で稲を刈る必要がありました。はさかけの設備は小さすぎたので、三脚、鉄棒、ハサギを集めるため集落中を奔走し、ご協力をいただきました。鉄パイプが足りな

いときは美人林の隣の竹林まで集落の方と竹を切りに行ったこともありました。最終的には優しく温かい集落のみなさんのお陰で妻と二人で、無事にこの長くて骨の折れる仕事を一緒に終えることができました。このはさかけの完成に協力してくれたすべての集落の方に感謝し、ご迷惑をおかけしたことを謝罪したいと思います。新潟市の学生たちと、キョロ口を含めて下川手集落で三つ目のはさかけになりました。同じ工程を経て、美しき森の観光客の目に美しい作品を提供することができました。はさかけは大地の芸術祭の作品に匹敵する美しい芸術です！



△深い田んぼで
稲刈りの作業



△三桶のはさかけ